



# ハタハタ

あらうみ いのち  
荒海にかがやく 命

たか く いたる しょぼう  
高久 至 作 あかね 書房

ハタハタという魚の卵は色とりどりで、まるでほうせきのよう。お母さんが食べるエサで、色が決まるらしい。秋田の冬は、嵐からはじまる。雷鳴がとどろき、海は荒れくるう。この荒海に、海の中をうめつくすほどのハタハタがやってくる。ふだん深海にすむハタハタは、産卵のため、水深2〜5メートルの浅瀬まできて、海藻に卵を産みつける。ふ化したハタハタは、海があたりかくなると深海へ旅立ってゆく。そして2年くらいあとの冬、命をつなぐために帰ってくるのだ。

